

## 挨拶

森川 幸一（専修大学法学部長）

ご紹介いただきました専修大学法学部長の森川幸一と申します。専修大学法学部を代表して一言ご挨拶申し上げます。

この度は、南開大学創立100周年を記念する国際学術シンポジウムに、中国、韓国、日本の他の著名な大学の先生方に加えて、私たち専修大学法学部のスタッフをご招待いただきまして、誠にありがとうございます。南開大学が100年にも及ぶ偉大な歴史を刻まれてきたことをお慶び申し上げるとともに、次の100年に向けて、今後ますます発展されますことを心よりお祈り申し上げます。

南開大学法学院と専修大学法学部は、2013年7月に組織間の学術交流協定を締結し、以来、6年間にわたる学術交流を続けてまいりました。私たち専修大学の法学部は、東京の神田神保町にありますが、この神保町には、貴学の著名な卒業生である初代国務院総理の周恩来氏が、若き頃にお住まいなり、当時この地にあった東亜高等予備校で学ばれていたことから、神保町には、「日中平和友好条約の締結20周年記念」および「周恩来生誕100周年記念」で建てられた顕彰碑（「周恩来ここに学ぶ」石碑）が存在しています。

このような古くからのご縁もあり、両校の間に交流協定が結ばれたのですが、この協定の締結に当たって多大のご尽力を頂いた故小野寺忍教授のご功績を、私たちは決して忘れることはできません。小野寺先生は、本日もその代表の方がおいでになっている山梨学院大学、東洋大学を経て、2010年に専修大学に赴任されました。山梨学院大学は既に1990年代の初めごろから南開大学との間に姉妹校関係を結ばれていたと伺いましたが、その中で培われた南開大学の先生方と小野寺先生との信頼関係を抜きにしては、南開大学法学院と私ども専修大学法学部との間の学術交流協定の締結はありえなかったでしょう。

2016年11月10日～13日にかけて、左海聡・学院長（当時）を始めとする5名の先生方を専修大学にお招きして、「東アジアにおける新しい規範的秩序の動向」というテーマで国際シンポジウムを開催させていただき、私もその総合司会を務めさせていただき

ましたが、小野寺先生は、それから約10日後の11月24日に67歳でお亡くなりになりました。このシンポジウムで小野寺先生にお会いできることを楽しみに来日された南開大学の先生も多かったと思いますし、小野寺先生ご自身がこのシンポジウムに参加できなかったことを誰よりも口惜しく思われていただろうことは想像に難くありません。

このように小野寺先生に結んでいただいたといっても過言ではない南開大学法学院と専修大学法学部とのご縁ですが、小野寺先生亡きあとも、2017年7月に本学教職員6名が、またこの度も7名が貴学を訪問し国際シンポジウムに参加する機会を与えていただいたことに、専修大学法学部を代表して改めて感謝申し上げます。小野寺先生にも両校の関係が変わらず発展していることをきっと天国で喜んでいただいているものと確信しています。

専修大学も来年2020年には創立140周年を迎えることになり、現在、神田の靖国通り沿いの校地に地上16階建ての新校舎を建設中で、来年4月の竣工を目指して急ピッチで工事が進められています。来年には、創立140周年記念事業の一環として、新校舎に南開大学法学院の先生方をお招きして記念の国際シンポジウムを開催できないか、これからご相談をしまいたいと考えているところです。

最後になりましたが、本日から二日間にわたるシンポジウムが、南開大学100周年を祝うに相応しい実りあるシンポジウムになりますことをお祈りするとともに、専修大学の参加者も、そのために全力を尽くしたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。